

三段位認定会の受験を目指して

全麵協段位認定部会部長 加藤 憲

はじめに

全麵協に段位認定制度が平成9年に導入されて以来16年が経過して現在段位認定者は9300人を超えるまでに全国的に普及してまいりました。そば打ちは本来段位を認定されていなくても打って食することができるものであります。なぜか一段でも高い段位の認定を求めて受験する人が、年々増えてきております。これは段位認定制度が目指すものは「そば道」であり、段位はその「道しるべ」でそば打ちの奥深さに魅力を感じている人が多くなってきたからだと思います。



段位認定制度では、初段位、

二段位はその導入過程であり、三段位はそば打ちがある程度完成度に近づいた段階にあると位置付けております。よく「〇〇道」を修練する時に「守・破・離」といわれることがあります。師から基本をしっかりと習いそれを着実に守るといふことであり、「破」は、その基本の上これを破り自分なりのものを付加していくこと、そして「離」は師から独立して自分なりのものを完成させていくことだと一般には云われております。三段位は「破」の段階ではないかと思えます。

三段位は技能審査チェック項目に「人前でそば打ちが披露でき、市町村を代表してそばの紹介（歴史・文化）ができる力量を持つ」とされております。よく認定会後の審査員講習で、初段から二段位になるのには階段を一段登ればよいが、二段位から三段位に

なるには10段階位登らなければならぬといわれております。実際にも粉の量も100gから150gと1.5倍になりますし、切り揃え率も70%から90%と高率になりますので、それなりの訓練が必要になってくるものを指摘しているものと思えます。

ただこのことにより、あまり厳しすぎるからとか、難しすぎるからと考えるのではなく、実際に三段位に認定された人の感想を聴くと、このような過程を踏むことにより、更にそば打ちが楽しくなり、美味しいそばを自信を持って打てるようになるということが増すといふことでもあります。多くの方がこの厳しさや難しさに挑戦して自分の人を充実させていたがたいと思えます。

■ 三段位認定会受験するに当たっての心構え
(1)「そば道」の追求とその「道しるべ」としての再確認
前記した通り、本来そばは段位に認定されていなくても

十分に打てるものであります。が、段位認定は「そば道」を目指す「道しるべ」であること、再認識して三段位の認定に臨んでもらいたいと思えます。

(2) 初段位から二段位認定までの過程よりは10倍位厳しい階段を上ることの認識
これも前記した通りであります。三段位は、そば打ち技術としてはほぼ完成度に近いものになっていることが必要であることを認識して訓練して下さい。

(3) 平素の心掛け
素人のそば打ちの趣味であるから、毎日そば打ちができるわけではありませんが、機会をとらえてできるだけそば打ちをするように心掛ける。少なくとも週2〜3回くらいはそば打ちをするようにする。また、包丁は毎日握って5分でもよいので切りの練習をする、また、麵棒も機会あるごとに体重をかけながらの転がし方を訓練するなどのことを行なうと急速にのしや切りが上達すると思えます。このようなことを常に念頭におきながらそば打ちを訓練して

いただきたいと思います。

② 基本の習得

(1) 三つの均一
そば打ちは、三つの均一の挑戦です。

・水回し…そば粉、つなぎ粉の一粒一粒に均一に水が浸透するかどうか。
・のし…麵体が均一の厚さにのせているかどうか。

・切り…切り幅、切り揃え率が均一になっているかどうか。
この三つの均一を意識してそば打ちをするときれいで、美味しいそば打てる。

(2) 各作業の基本を正しい理解
全麵協素人段位認定制度の認定会の審査は、衛生検査、水回し、こね、のし、切り、後片付け、総合で評価されます。なかでも水回し、こね、のし、切りの4行程については、なぜそのような手順や行程なのか、その理由はなぜかを正しく理解するとともに、体に覚えさせておき淀みなく自然と作業ができるようにしておくことが大事です。そのため、平素は漠然とそば打ちをするのではなく、前記

のことをよく認識しながら訓練することが上達の早道だと思います。

(3) 技能審査チェック項目及び全国審査員統一見解の理解
段位認定会の審査基準は、技能審査チェック項目と全国審査員統一見解であります。このことについて良く理解して配点基準、審査のポイント等についても平素から頭に入れてそば打ちをすることが大切であります。

三段位認定大会をふりかえって

そば工房「あびさ」所属 三島 捷平

平成24年12月の三段位認定大会受検の決心をしたのは同年9月に開催された千葉県そば推進協議会主催の「東葛地区研鑽会」に参加したことがきっかけでした。

それまでの私は平成21年9月に二段位をいただいてから2年を経過していましたが、蕎麦打ちは上手くなりたかと思いつつも上位段への挑戦意欲は今ひとつ湧いてこないまま過ぎていました。

以上、三段位認定会の受験

に臨む心構え等について記しましたが、そば打ちは段位を認定されることが目的ではなく、前記した通り、楽しく、きれいで、自分が納得できるそばが打てるようになること。それが如いては「そば道」を目指すことに通ずるものと思えます。目的をしっかりと持って楽しく美味しいそばを打っていただくことを期待しております。

三段位認定大会をふりかえって

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。しかし、三段位取得にそなえての練習は仲間同士の練習だけでは上達に程遠いため、

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

三段位認定大会を受検したことは、4名の講師の先生方の熱意あるご指導と真剣さを目の当りにして、蕎麦打ちの取組姿勢や蕎麦打ちの技術をあらためて認識させてくれると同時に、上位段への挑戦意欲を湧き立たせてくれる良い機会になりました。

第3回東日本シニアアマスタース 千葉県大会の審査員を経験して

千葉県そば推進協議会 理事 腰原弘敏

12月8日千葉県で東日本シニアアマスタースが開催され、五段位の審査員に混じり私も審査員を経験いたしました。段位認定大会と違い、選手の方々が皆、長年のそば打ち経験を活かし、真剣に取り組み姿を審査を通じて目の当たりに見させていただいたことは、自分自身大変勉強になりました。

かねがね、推進協として会



員の技術向上を目的とした合宿や研修会を行ってきましたが、当日は個々の技術をいかに発揮され、全く大きな技術の差は感じられませんでした。また、いろいろな大会に出場されている方々を中心に、審査員間の予想を聞いたりましたが、意外にも日頃の実力を発揮できずにいたり、また予想を反して健闘される方々が非常に多く、楽しい大会でもありました。

その後の懇親会にも多数の方々が出席され、日頃のそば談義に華をさかせていました。

今後、推進協としてこのような大会やユニークな大会を企画し、ますますそば打ちを楽しめるものにしていきたいと考えております。今回の企画を推進していただきまし、金子専務理事に感謝するとともに、更に楽しい企画をお願いしたいと思います。



第3回東日本シニアアマスタース 千葉県大会で受賞して思う

千葉県そば推進協議会 副理事長 腰原好

「老兵は死なず、ただ消えゆくのみ」の心境でいたところ、今大会が地元開催で、主管する立場にあるため、48名の定員を満たしたいとの義務感で参加いたしました。前日になって体調不良で2名の欠員ができましたが、定員に達することが出来うれしく思います。また個人としては優姿賞という特別賞をいただき、大変光栄に思います。

そば打ちを振り返ってみますと、段位は減点法ですから、失敗しないようにすれば良いのですが、シニア大会となると段位の要件に加え、順位を競うことから秀でたものがほしくなります。

上手な人を「腕がいい」と言います。手がいい、指がいいとは決して言いません。何故なのでしょう。そば粉に接する指や手の使い方につい

ては、色々話題になりますが、その元になる体の使い方については、具体的な表現は少ないと思います。体を上手に使う方法について考えているところですが、その一つは筋肉には使いやすい位置があることです。

筋肉が効率良く力を発揮できる位置に関節の角度を持ってゆくことで、足の位置、作業台の高さ、道具を効率の良い状態に体勢を整えることであります。

無理なく、動き易く、疲れないうち方、姿勢の例として、自然体が良いと言います。日本武道でよく使われる言葉ですが、具体的にイメージがわきません。種々の書物を読み、自分が理解できた事柄をためし、表現してみたのが、今回の優姿賞につながったのではないかと考えます。「努力は裏切らない」と言いますが、審査員の方々の眼にとまったことが幸運を呼んだと思えます。

未完成ですがこれからも精進し、筋道をつけたいと思えます。